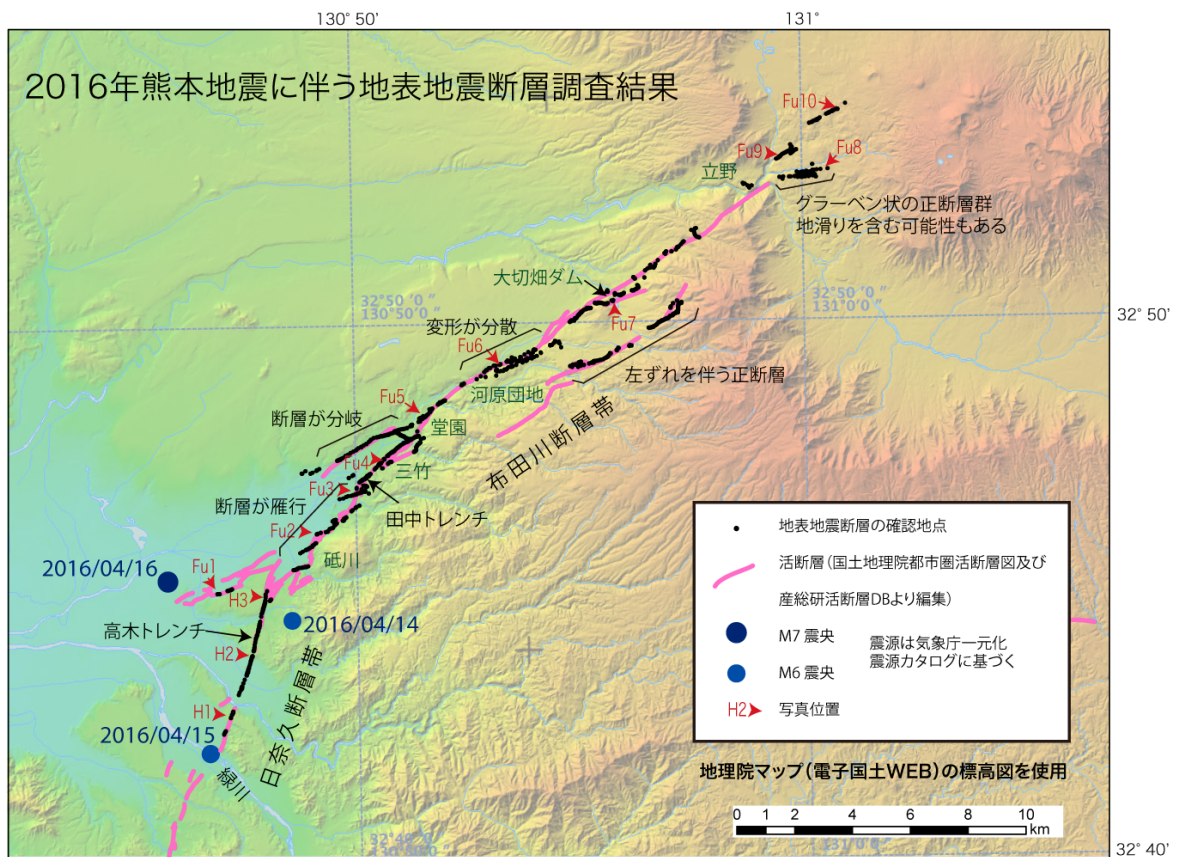
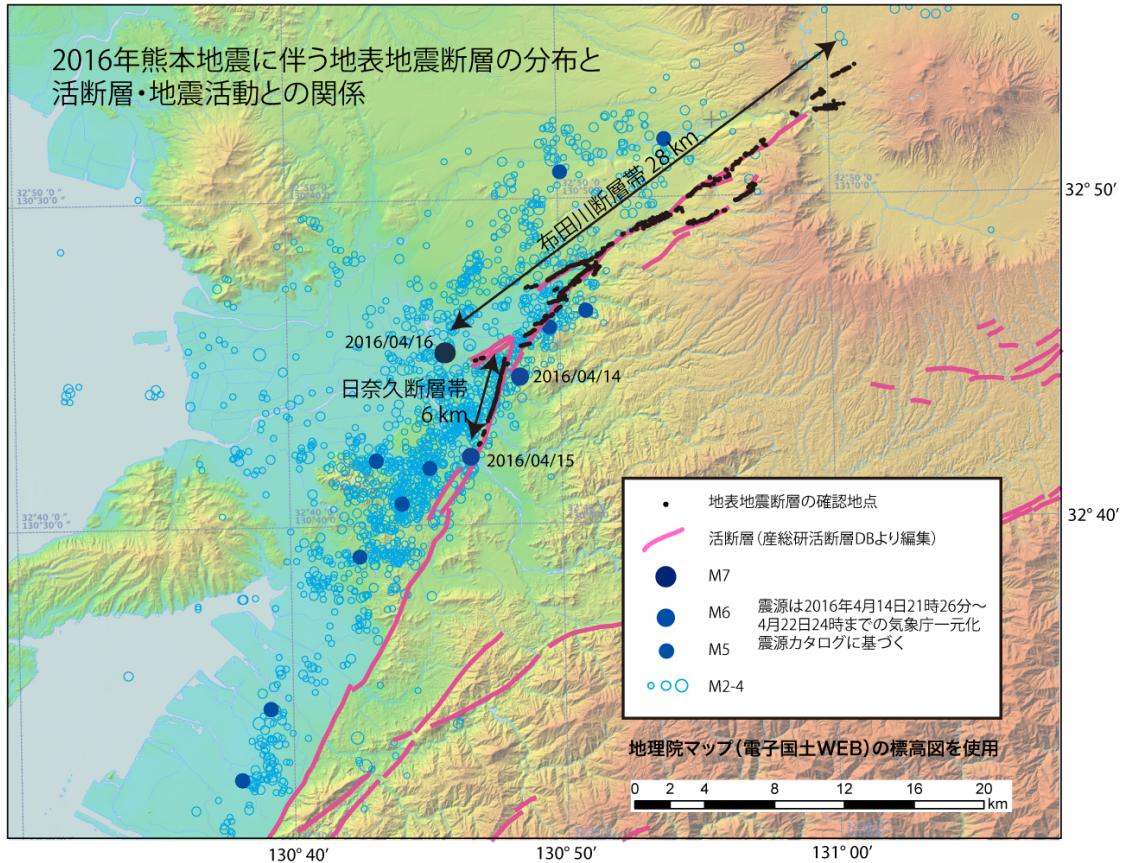


2016年熊本地震に伴って出現した地表地震断層

- ・日奈久断層帯および布田川断層帯に沿って、地表地震断層の出現状況を広域的に調査した。
- ・その結果、日奈久断層帯では高野—白旗区間の北部約 6 km にわたって、布田川断層帯で布田川区間をやや超える約 28km にわたって、地表地震断層の出現を確認した。
- ・二つの断層に沿った複数の地点で、4月14日の地震で生じた道路の亀裂や段差が16日の地震で拡大したという証言が得られた。

- ・日奈久断層帯の地震断層は、今までに報告されていた活断層にほぼ一致する場所に出現した。
- ・変位量は、高木地区で最大約 75cm に達し、そこから北側と南側に向かって減少する。
- ・緑川の南側では活断層沿いの変位は確認できなかったが、主断層の西側で SAR 干渉図とほぼ一致するわずかなずれが認められることがある。
- ・日奈久断層帯の高木トレンチで確認された活断層が、今回の地震で活動した。

- ・布田川断層帯の地表変位は、日奈久断層帯との接合点より約 3 km 西側を西端とし、東端は従来認定されていた活断層の端点より約 4 km 東側の阿蘇カルデラ内まで、約 28 km にわたって認められた。
- ・布田川断層帯の地表変位も、ほぼ従来指摘されていた活断層に沿って出現したが、それ以外にも複数の平行な断層や幅広い変形帯を伴うことが多い。特に、断層の南側では正断層成分を含む変位が広く認められた。
- ・布田川断層帯の右ずれ変位量は堂園付近で最大 2.2m に達するが、多くの場所では断層が分散・分岐するため、正確な変位量の測定が困難な場所が多い。分散する変形や断層の変位の状況から、堂園付近から大切畑ダム付近に至る約 10 km の範囲では、全体として 2 m 前後の右横ずれ変位量を持つと推定される。
- ・布田川断層帯沿いの田中トレンチで確認された活断層が、今回の地震で活動した。



代表的な地表地震断層の写真

日奈久断層帯



H1: 地表変位の南端付近
(御船町山出)



H2: 南端から約 2.5
km (御船町片志和西
方)



H3: 御船町土山付近
(日奈久断層北端付
近)

布田川断層帯



Fu1: 嘉島町井寺付近 (地表変位の西端) 約 10cm の右ずれ



Fu2: 益城町砥川付近



Fu3: 益城町福原付近



Fu4: 益城町三竹付近
横ずれと縦ずれを伴う



Fu5: 益城町堂園付近
(2.2m の最大変位量が
観察された地点)



Fu6: 西原村田中付近 (丘
陵上の正断層群)



Fu6: 西原村田中付近（低地南縁）右横ずれと縦ずれが生じている。



Fu7: 西原村 大切畑ダム



Fu8: 南阿蘇村東急ゴルフクラブ東方



Fu9：南阿蘇村河陽



Fu10：南阿蘇村東海大
学東方